暮らし具体例で学ぶ

ココでも新聞！ 家庭科

三重 津高

衣食住など、暮らしに欠かせないテーマを学ぶ家庭科。調理や裁縫実習が印象に残る人もいると思います。変わった場面でのNIEを紹介する二回目は、三重県立津高校の一年生の家庭科をのぞきました。（那須政治）

考えまとめ、伝える力も育む

○を科学する」と集約する。

昨年のあるグループは、冷凍食品の活用法を伝える記事から「冷凍食品の知られざる影」をまとめた。増加傾向にある消費量のデータを示す一方、含まれる食品添加物が体に及ぼす影響を指摘。過剰摂取を避ける対策も提案した。最後に「賞味期限」と「消費期限」の違いを解説した。

家庭生活は、食、家族、消費経済、子ども、住まい、高齢者、福祉など幅広い。記事選びは生活面が中心だが、社会面や経済面も参考になる。

よくかむことの大事さを訴える大学教授の講演記事を基に「サチコの知らないそしゃくの世界」をテーマに据えた鈴木彩良さんは、「プラスαの記事が見つからない」と苦戦。その横で、同じグループの竹花凌さんと松山颯汰さんが「夕飯にかける時間は？」と周りの生徒に調査していた。

内容を練る生徒らに、赤塚教諭がヒントを投げた。「『○○について』というテーマ名はアウト。他人が興味を引く名前を意識してね」「資料が文字ばかりだと見づらい。絵や図表を使い、キャラクターを登場させると親しみやすいよ」

取り組みには「授業中に下を向く生徒を減らしたい」という赤塚教諭の思いがある。大学受験科目にないためか、家庭科は授業中に他教科の勉強をしたり、居眠りをしたりする生徒もいるという。二〇〇〇年、前任校で「生徒の興味関心の幅を広げ、読解力を高める教材に最適だ」と新聞に着目。集団で意見を共有し合えばより学びが深まると考え十八年間続けている。

進学校の津高では、家庭科の履修は一年生だけだ。赤塚教諭は「言いたいことを分かりやすい言葉で人に伝える力が付くと思う」と意義を説明しながら、「日々の話題を網羅する新聞から学べる大人になって」との願いも込める。

上 新聞記事を読み込んで発表内容を話し合う生徒たち 下 「換気」についてまとめた昨年のグループの発表資料＝いずれも三重県立津高校で

赤塚美鈴教諭

■新聞活用の狙い

「家庭生活」に関する記事を題材に、身近な話題・課題について深く学び、考えてもらう。

■学習の流れ

【導入（４月）】記事を自由に選び、「あらすじ」「感想」「記事からの考察」をまとめる。

【展開（５・６月上旬）】同一、類似するテーマの記事を選んだ生徒同士で組分けし、発表テーマを設定。資料づくりをする。

【まとめ（６月中旬）】グループで発表。「起承転結」と「発展」を意識してＡ４大カード５枚にまとめる。

取り組みを教えてください

みなさんは、どうやって新聞を活用していますか？　８月のＮＩＥ全国大会に向けて、学校、地域、家庭などでの取り組みを募ります。わくわくするような楽しい実践をお待ちしています。ファクス＝052（221）0591、メール＝junior@chunichi.co.jp＝で送ってください。

狙うぞ特ダネ!?

たなかひさし

どれが大事かを考える

将棋の藤井聡太四段（一四）は小一の時、全国大会愛知県予選で準優勝し、地元瀬戸市向け地域版に登場。「羽生善治名人（当時）を超えたい」と話していて興味深いです。

今年四月の本紙では、日ごろ新聞を読んでいると言い、さまざまなニュースが隣り合わせに載っていることを挙げて、どれが大事かを考えるようになり、将棋の手を読むのと同じと語っていました。ＮＩＥの視点から参考になります。

新聞とわたし

加藤朝陽（あさひ）さん

小学五年ごろから「中日こどもウイークリー」を読み、この春から中日新聞を読んでいます。大人の新聞は分量が多いけど、こども新聞で紙をめくるのに慣れていたので、違和感はないです。ウイークリーでは、特に歴史まんがが気に入っていました。江戸から明治時代が描かれた時に、学校で歴史を学んでいて、勉強にも役に立ちました。

最近、気になったのがフランス大統領選と名古屋市長選。市長選は市民版や県版で公約も読みました。親の投票について行き、選挙に興味を持ったのがきっかけです。デビュー後、連勝記録を伸ばすプロ棋士藤井聡太四段の姿に励まされてもいます。同年代の活躍、すごいですよね。（名古屋市山田中一年）

同年代の藤井四段、すごい

新聞ひらっこが、新聞の読み方やお薦めの記事をツイッター（@chunichi_nie）でつぶやきます！